

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 新得ふれあい館	評価実施年月日	平成21年9月15日
評価実施構成員氏名	伊藤 聡 伊藤 竜太 能登 美由紀 会田 恵美 山本 美幸	杉谷 法子 内田 栄子	小田 千尋 高橋 トヨ子
記録者氏名	伊藤 聡	記録年月日	平成21年9月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念は作られていない。	スタッフ全員で作りあげたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	生活障害を気にすることなく、日常生活が送れるようさりげない支援に努めている。個人の名札にも理念を記載し日頃から意識を高めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時に説明をさせて頂いている。パンフレットに記載し、広く理解してもらえるよう取り組んでいる。	パンフレットについては見学の方、希望される方にお渡ししている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会の行事に参加するなかで、ホームの認識も高まっている。	町内会行事等に参加することで、かかわる機会も増えている。挨拶も自然になっている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、地域の一員として行事にも参加させて頂いている。	これまで町内会行事は、参加をしても恩恵を受ける立場に偏っていたが、今年はホームも盛り上げ役になることが出来、地域の瓦版にも取り上げて頂いた。
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	今後の課題。是非お役に立ちたい。	キャラバンメイトとして地域の方に貢献したい。他、出来ることがあるか話し合いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		町内のサービスを利用するだけでなく、ホームでも地域貢献出来ないかとの提案があり、地域のお祭りで出し物を行った。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		今年、社会福祉士の方の講義に参加させて頂いた。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		今年の職員研修は虐待をテーマにグループワークを行っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんは日常的に職員とかかわるなかで、思ったことを話したり表現されている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族さんには毎月個別のお便りやお小遣い出納を郵送して、現状の報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時だけでなく電話等でも受け付け、必要に応じご自宅への訪問もさせて頂いている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回の本社会議で話し合っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	現状は通常勤務だが、入居者さんの状況に応じて対応することは可能。スタッフにも理解を頂いている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現場で出来るだけの配慮はしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は全スタッフが受けられるよう配慮。		研修に参加出来る様に、勤務には気を配っている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町内の上佐幌GHに訪問。交流は盛んではないが機会は増やしていきたい。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	会社行事のほか、職員で食事に行くなどしている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	意欲のある人には通常の業務だけでなく、様々な仕事をして頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前から面談をし、不安やニーズを伺って安心して頂けるよう努めている。		ホームを実際に見に来ていただくことをオススメしている。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に行う面談で、不安やニーズを伺って安心して頂けるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームを利用しなくとも生活できると思われるケースがあり、包括支援等の機関があることを説明したことがあった。介護サービスについて知らない方もおられるので、適切な対応に努めたい。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	焦らせてしまうことがないよう、見に来て頂いている。見て頂くことで皆さん安心されている。		ほとんどの方が事前に下見に来られている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	得意分野には能力を発揮していただけるよう取り組んでいる。出来ないことにはさりげなく支援をし、お互いに支えあっているホームになっている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ほとんどの家族さんと、良い関係を築いている。面会時は勿論、電話でも相談しあっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ケアプラン作成にあたり、本人・家族さんのニーズをきいてプランの中にのせている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの生活を尊重し、病院や散髪等本人のなじみのところへ行けるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者さん同士のかかわりで、勘違いや誤解が生じることが多々あるので気を配っている。		耳の遠いかた、ネガティブ思考の方でコミュニケーションに誤解が生じないよう見守っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談には丁寧に対応している。町でお会いしても気軽に声を掛けて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	良いと思われることと、本人本意が違うことがあるがバランスを考慮して対応している。		喫煙を希望する方には継続していけるよう配慮する一方で、ライター管理や喫煙場所についてはルールを説明させて頂いている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人や家族さんから、いろいろな機会に聞かせて頂いている。サービスに生かされるようなことはケアカンファレンスで発表しあっている。		自宅にいた時のスタイルを大切に、ご本人の馴染みの友人に会ったり、通院、買い物をして頂いている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の観察は勿論、ケース記録をとって把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の思い・家族さんの思いをプランに盛り込み、毎日かかわっているスタッフが意見交換し現実的なプランを作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ケアカンファで、利用者さん全員の話し合いを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者がケアカンファで気づいたことを報告しあい、計画作成担当者中心で見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	どのようなことが出来るか検討していきたい。		隣のシニアハウスの利用者さんとの交流。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	包括支援センターの担当者さんにボランティアさんをはじめ地域資源の情報提供をして頂いた。		毎月お話ボランティアさんに来て頂いている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	介護保険のサービスを利用することはない。本人の意向に応じて町のリフレッシュルーム(Gym)に通う方の送迎・付き添いを行っている。		付き添う中で、ホームでも出来そうなことは会議の時などに報告している。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今後必要性に応じて、相談していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月受診し、アドバイス等いただいている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	毎月お会いし、お話をきいて頂いている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護職はいない。相談できる保健師さんがいる。心配なことがあれば相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	不安を与えないよう、早期の退院に備えている。面会に行つて関係者ともよく相談している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	早い段階とは言えない。家族さんとは今後早い段階で話し合つていきたい。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化したときには、担当医や家族さんと相談し対応を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	通常はこれまでの担当者さんと情報交換を行った上で、スタッフ会議の場でどのようにお迎えするか検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけについては会議でも触れて、個人を尊重する大切さを話し合っている。1人2人の情報は、ファイルで管理している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	こちら側でやれば、簡単なことであっても個人のペースに合わせる様努めている。		筆談で確認をしたり、失語の人にも時間をかけて会話をする。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それぞれのやりたいことや過ごし方は様々。ニーズをきいて対応できる範囲で個別の対応も行っている。		町のリフレッシュルームを活用し、運動に通う方5名がいる。そのほか教会への送迎をすることで、これまでの人づきあいが継続される方がいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	1人1人が望む美容室に行ける。人によっては11キロ以上離れた理容室にも足を運んでいる。今後も希望があれば応えていきたい。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食欲の沸かない人には、おにぎりにして提供、麺類が駄目な人にはご飯等その人に合わせて召し上がっていただいている。		毎食後の片づけを仕事にされている方がいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒・喫煙をされる方がいない。		今後希望される方がいた時には、対応していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツにためらいのない人ではあるが、日中はトイレに通う習慣に少しでも戻って頂けたらと誘導・介助に取り組んでいる。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴表を使い入浴状況を把握し皆さんが入れることを大切にしている。入居者さんの希望がある場合は、出来る範囲で対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣を尊重して、自由な休息をとって頂いている。遅くまで起きている人は、巡回時に様子をうかがって体調を考えながら声かけさせて頂いている。日中、座って過ごすことが多い人には足の浮腫みを考慮しお昼寝をすすめている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お茶いれ、食器の片付け等出来る入居者さんが毎日やって下さっている。		畑仕事等
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族さんとも相談し、希望に沿って対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気分転換にその人の住んでおられた地域に出かけ、買い物・ドライブを楽しんで頂いている。		ご本人が気持ちよく外へ出る機会を考えている。Gymに行きたい方、神社へ行くのが楽しみな方、買い物が楽しみな方。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望があれば状況に合わせて行っている。		家族さんとも連携して、可能な限り応えている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	連絡を取りたいと要望があれば対応している。こちらから、気分転換にと連絡を取って差し上げることもある。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	特別な決まりは設けず、身元の分かる方の訪問には快くお迎えしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が理解し、不必要な施錠はしない。研修で学習し適切なケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上の夜間に限り施錠はするが、不適切な施錠はしない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホームの設計上入居者さんの所在は把握がしやすい。日中、夜間とも定時に様子をうかがっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	現在のところ、物品をもっていったり危険な使い方をする方はいないので特別なことはしていない。状況が変化したら対応も検討する。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット等から、反省や対応を検討。同じことを繰り返さないよう取り組んでいる。		行方不明の心配のある入居者さんはその日の服装を申し送っている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命の講習はうけているが、定期的な訓練は出来ていない。消防署に相談し緊急時の講習等をうけて急変時に備えたい。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	設備は良くなったが、地域の方の協力を頂くための取り組みは不十分。普段のご近所づきあいは勿論、運営推進会議等を利用し交流と理解を深めていきたい。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時は勿論、必要があればお宅訪問し現状の報告をさせて頂くことや意見を伺い話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p> <p>毎朝のバイタルチェックを欠かさず行っている。お茶を飲みながら自然と接し、訴えがあるときや体調の変化が見られた時は病院へ受診するなどの対応している。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p> <p>管理簿や表をすぐ見られるようにし、服薬後の袋などもすぐに処分せず確認作業を行っている。</p>		服薬の作業は、2人の職員が責任をもって行うよう決めている。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p> <p>2人だと寝たきりになりそうな方や自力で移動が困難な方には、車椅子を使用しリビングで過ごせるように対応している。その際、水分摂取や軽度の運動が伴うのでスムーズな排便をもたらす取り組みと考えている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p> <p>出来ない方には、洗浄を支援している。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p> <p>食事は毎食後に記録をのこしている。水分量が足りないと思われる方は水分チェックを行い記録を残し促している。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>感染症対策として、カンファ水での消毒を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具の消毒を毎日行っている。「心得」を見えるところに掲示して注意している。		一番無理のない昼食後に行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の両側に花壇があるほか、ベンチを置いて安心感を持って頂けるよう配慮している。		入居者さんの中には、ほぼ毎日ベンチで寛ぐのを日課にされている方がおられる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	すべての設備は家庭的なもので、どなたでも利用しやすいものと考えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用のリビングの他に、和室があり自由に利用していただくことが出来る。また玄関のポーチも2人になったり、気の合う人と過ごすことが出来る。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安心感を持って頂けるように入居時から使い慣れたものを持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ご自分で温度調節が難しい方は、状況に応じて換気を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>元気な入居者さんにとっては、草むしり等のお仕事の場にもなっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②利用者の2/3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	②家族の2/3くらい

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>③たまに</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>②少しずつ増えている</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>②職員の2/3くらいが</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②利用者の2/3くらいが</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)